

▼推薦/公募で集まった高校生は、1・2のどちらか or 両方のプログラムを選んで参加。

Program 1

地域連携プログラム

～ テーマ ～

社会福祉の推進

児玉地域の魅力発信

(児玉駅周辺のにぎわい創出)

スポーツの推進

1 ワークショップ



地域の特性や課題、魅力とは？
どのテーマについて考えてみたい？

2 フィールドワーク



自分の興味のあるテーマについて、
まちで体験しながら考えてみる

3 発表



取り組んできた内容を、
合同文化祭で発表する



業務委託：コーディネーターによる全体サポート

Program 2

合同文化祭

市内の大型施設を貸し切って

6校から集まった高校生が

企画・運営する合同文化祭を開催。

地域コラボ企画



地元野菜のスイーツ販売、
伝統工芸とコラボしたショー… etc

部活動の パフォーマンス



ダンス部・軽音楽部・演劇部
… etc

取組み発表



地域連携プログラムの
取組み発表の場

「七高祭」とは ①

■ 概要と経緯

人口規模に対して高校の数が多いことが、本庄市の特徴であり、強みでもあります。市では、市内で学ぶ約5千人もの高校生を本市の地域資源と考え、本市に対する地域愛の醸成と関係人口につなげるため、これまで、まちづくりに関するパネルディスカッションや地元企業への商品開発の提案、合同文化祭など、様々な高校生との連携事業を実施してきました。

令和4年度までは、公立・私立・特別支援学校を含めて7校の高校が市内に所在していたため、こうした高校生との連携事業を「七高祭(ななこうさい)」と称してきました。しかし令和5年度より、県立児玉高校と県立児玉白楊高校が統合の運びとなり、新生「児玉高校」が誕生することとなりました。これを受けて、市内に所在する高校の数は6校になりますが、これまで7つの高校で様々な事業に取り組んできた経緯を尊重し、今後も引き続き市内高等学校との連携事業を「七高祭」と呼ぶこととします。

～参加校～

県立児玉高等学校・県立児玉白楊高等学校(令和4年度まで)・県立本庄高等学校・県立本庄北高等学校(平成24年度まで)

私立本庄第一高等学校・私立本庄東高等学校・私立早稲田大学本庄高等学院・県立本庄特別支援学校(令和元年度から参加)

▼本庄織物のファッションショー(H30)



▼七高祭高校生実行委員(R1)



▼高校生によるまちの取材の様子(R4)



「七高祭」とは ②

■ 過去の実施事業

年度	実施内容
H20～ H22	<u>セブンハイスクールサミット</u> 環境やまちづくりなどをテーマに、パネルディスカッションやプレゼンテーションを実施。
H23	<u>ハイスクールまちなか再生プロジェクト「駅からハイキング大作戦！！」</u> 早稲田大学の留学生と一緒に、JR東日本主催のハイキング企画に参加しまちを巡りながら、異文化交流を行った。
H24	<u>「本庄まつり大作戦！」</u> 本庄まつりの会場で、各校のクラブ発表や、ワークショップのプレゼンテーションなどを実施した。
H25	<u>地元企業へのプレゼンテーション</u> 地元企業に対して、地域の魅力を活かした新商品の提案を行った。
H26	<u>「おいしさ発見マップ」制作</u> 地元の特産品など、高校生が厳選したおいしいものを紹介するマップを制作した。
H27～ H31	<u>合同文化祭@はにぼんプラザ「六高祭」「七高祭」</u> 市内高等学校が参加し、合同文化祭形式でクラブ発表や、本庄織物のファッションショー、高校生がプロデュースしたオリジナルドリンクやスイーツの提供などを行った。2018年までは、市内の6校が参加していたため「六高祭」の名称だった。
R3	<u>写真冊子「虹がかかるまち」制作</u> 市内7校から高校生が参加し、高校生の視点で本庄の日常を写真に切り取ったPR冊子を制作した。
R4	<u>広報紙・PR動画制作・WEBでの合同文化祭「七高祭」</u> 高校生が取材・執筆した広報紙の発行や、高校生が撮影・編集した市PR動画の制作、また、WEB上にて、PR動画や部活動の発表動画、写真などを掲載した合同文化祭を実施した。
R5	<u>課題解決プログラム・合同文化祭・産学官連携プログラム</u> <環境><商店街><農業><児玉駅>をテーマに課題解決提案をするプログラムの実施。はにぼんプラザで4年ぶりの合同文化祭を実施。昭和西川(株)・日本薬科大学と連携し、ふるさと納税返礼品(枕)開発プログラムを実施。